



落選和歌集 (三)



(↑コレ鬼つす)

多谷 昇太

見渡せば弥生の景色ぞ目覚ましきサクラよサク
ラあといくたびか

朝の道勤めに向かふ道端に朝顔咲くるはみずみ
ずしかり

玉の緒の絶へ絶へ生くる我さして何を語るか美
(は) しき朝顔

※朝に咲き夕べに死ぬる朝顔

横浜はかくも静けきところかなコロナ惨禍(GW
中)の西口を行く

※ホント、人っ子一人いなかった

雪女雪とうものは愛しかり葉月の熱暑に世に苛
まるれば

雲の峰あちらこちらに城ありていや増さり来る
勇士の観

光なく光求めてさまよふも闇路が続く…内に灯
さな

「まあ」とうがまさしに我の宿命ぞあれもこれも
や「まあ仕方がない」

庵など結びてしかなわりなくば無下の塵中ひさ
しく生けば

団地五階秦野夜景を独り占め極貧暮らしにこれ
のみ自慢

夢火花わが子ありせば見せまほし楽しからむに
こちら夢子

八十(やそ)過ぎてなほ悪童に苛まれ殺めらるる
が日の本事情

※八十才のホームレス襲ひし悪童ども

何を持ちはた何を持つべからざるやそは金にて
そろ過ぎたるは…とか

愛などはただの言葉と思はずはそを持ちてこそ
生かるるを知れ

※最後七字、已然形なの判ります？

思ふどちおとごころの今し出ずモンスター上
司に「表出ろ！」

小町とは秋田美人と知りにけり生地にも芍薬
添へて

※秋田に小町記念館「小町の郷」があります

親不知一度訪ねてみたきかな頼盛女房のことど
も知らむ

※流刑地に夫を訪ねた頼盛女房の子が親不知で波
に飲まれた…

世に旧ればなにをまめだつ色恋にただに遊ぶや
あれやこの人

養生は身のさかりびとを愛でしかず万媚小面見
るが楽しさ

時隔て今にあらはる女性（ひと）のゐて日下江は
ちすと醜に沁まむ

※拙著「ランボー、汝…」内のママさんに瓜二つの
人がいた…

こはいかに美人ヘルパー務め居る見ずやここに
し女心を

※在日韓国人の美人ヘルパーがいてその甲斐甲斐
しきたるや。又その勝気さも素敵だった…

老ひし身のプレカリアートに愛しきはこの娘
（こ）周庭気づかひてをり

女神ならアグネス・チョウを恋ひしかず千里の距
離も雲乗り行かむ

憂き世来てあとはなければ渡るまで魂（たま）行
く道や夢の浮橋

霧笛聞けそは人の世のこゑとなん悲しびがむた
人生行路（わたり）を見まし

添え書き…いつもの如く応募（先複数）作品は悉く
討ち死にしました。私にはまったく才能がないので
しょうか？拙著「クワンティエンの夢」内の梅子の
如き感慨が無きにしてもあらずですが、まあ（↑我が
宿命のつぶやき）仕方ないでしょう。左図は上の「養
生は…」の和歌より。こちららも拙詩「われドラキュ
ラのごとし」歌境かも知れません…。



【小面、若い女の面】



【こちらの2枚は万媚、女盛りの面ですね】

